

第3章 紀州徳川家の時代



農村工業の発展と在郷町

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
	昭和(戦後)・平成時代

湯浅醤油・粉河酢

湯浅（湯浅町）は醤油発祥地の一つです。江戸時代には、紀州藩の保護を受けて発展し、京都や大坂など上方にも出荷しました。湯浅と広の港からは、原料の大豆と小麦が移入され、醤油が売り出されました。江戸時代後期の湯浅は、醤油業を営む店が32軒、人口は6,000人以上もいて、熊野街道沿いの町になって



湯浅醤油の積み出し場跡（湯浅町）

いました。なお、享保年間（1716～36）には隣の広村（広川町）の業者が下総国（千葉県）に進出し、銚子の醤油業の基礎を築きました。

粉河寺の門前町でもあった粉河（紀の川市）は酢の産地でした。江戸時代の初め室屋が販売を独占し藩に御用酢を納め、元禄年間（1688～1704）ごろには、室屋など7軒が株仲間を作り和歌山城下や江戸に支店を開くほど繁栄しました。文政年間（1818～30）には、仲間以外の新しい製造業者がつくる酢も増え、独占が崩れていきましたが、粉河村は5,000人をこえる町になりました。

黒江漆器

黒江（海南市）の漆器は、室町時代後期に庶民の日常生活用に生産されたのが始まりとみられています。江戸時代の初めには、「洪地椀」の名で知られるようになりしましたが、素朴な塗りの椀でした。その後、春慶塗の盆や折敷（角盆）を生産し、大坂など上方への販売に成功しました。文政年間（1818～30）には大坂から職人を招いて、堅地厚塗りの本格的な漆器の生産も始めました。天保年間（1830～44）には約4,500人、うち賃か



黒江の町並み（海南市）

*1 幕府や藩の認可を受けて結成した同業組合。

*2 木地に黄や赤の色づけをした上に透明な漆を塗って、素地木材の肌の美しさを表したものの。

せぎの職人が約2,000人もいて、さながら町のような感じでした。江戸時代末には蒔絵や沈金をほどこした高級品が製造されるようになり、開国直後から輸出も始めました。

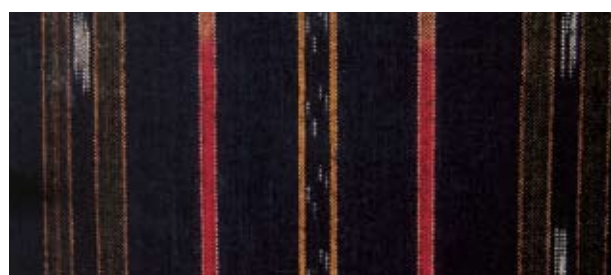
総糸・木綿

紀州藩は田畑に野菜や綿花などの商品作物の栽培を黙認したので、綿花を栽培する農家が増えました。総糸生産も奨励

したので紀州の綿花だけでは足りず大坂から買入れるほど生産が増えました。1727（享保12）年、紀州藩は藩内の総糸問屋を監督するとともに、上方の市場の動きも調べて、総糸の値段を決めるなど保護につとめました。総糸生産は農村の副業として広がっていきました。なかでも藤井村（御坊市）など日高郡で作られる「日高総」は品質がよいので紀州以外の地方へも多く販売されました。



黒江漆器



川上木綿

木綿織物も多く生産されました。伊都郡の「川上木綿」や那賀郡（岩出市・紀の川市あたり）の「紋羽織」が特産品として有名でした。紋羽織は松葉や針で毛羽立てる（起毛する）ようになってから、暖かくて肌ざわりがよいので、襦袢・股引などの下着や頭巾・足袋裏地などに用いられるようになりました。

蠟燭

蠟燭は蠟の実からつくりました。箕島（有田市）の廻船業者田中善吉が1736（元文元）年、藩の命令によって薩摩国（鹿児島県）から砂糖の原料である甘蔗（さとうきび）の苗の調達に出かけたときに蠟の実に注目し、その栽培方法や製蠟方法を学び蠟の良種を持ち帰りました。蠟の栽培も、藩命を受けた善吉により紀州各地に広められ、蠟実を絞る蠟燭を造ることも盛んになりました。18世紀末には箕島の製蠟業者が江戸を中心に関東6か国32か所に蠟燭を売り出しています。1853（嘉永6）年には海士・有田・日高3郡に46人もの業者がいて、彼らは株仲間により生産や販売についての取決めをしています。

在郷町の新しい動き

江戸時代に紀州藩内で生産された手工業製品には上にあげたもの以外に、和紙・高野豆腐・陶器・酒・砂糖・菜種油などがありました。これらの商品は18世紀末から生産量が増えました。農閑期の副業として始まったものが盛んになったからです。そして、農村にそれらの商品を集散する町のような在郷町が発展していきました。在郷町の商人たちは、農民や製造業者に賃金・資金・道具などの貸し付けや販売を通してしっかりと結びついていました。在郷町に新しく起こってきた商人が力を伸ばして、これまで藩内の物資を取扱ってきた城下町の大商人と対立するようにもなりました。

藩は、このように勢力を伸ばしてきた在郷町の商人たちと関係をもちながら、藩内の生産や販売を支配して、専売制を実施しました。その利益金で藩財政の赤字を防ぐとともに武器を買い入れ、軍備の強化に力を入れるようになっていきました。

江戸時代後期には、紀州においても農村のようすが大きく変わり始めていました。藩の指導者にはこうした藩内のようすをしっかりとつかみ、実情に合った政治をできる人物が必要になってきました。

* 1 漆器面に金銀粉や色粉など絵模様を描いたもの。

* 2 漆器面に模様を線彫りし、その刻み目に金箔を埋めたもの。

* 3 売ってもうける目的の作物のこと。

* 4 総という紡いだ糸を巻きとる器具に巻いた糸束、また、総からはずした糸束。